

出版産業のシステムとマーケティング情報



11年7月号の記事

- エリア別書店地図……………3
- 東京都立川市/立川駅周辺
- 写真で見る出版業界の潮流……………4
- 本を中心にした
こだわりのセレクトショップ
オリオン書房 ORION POPYRUS
- 加速する出版流通システム……………6
- 第24回光和出版セミナー
出版社・書店は、近刊情報を
どう活用すべきか!

- 近刊情報の整備で
出版社の営業が変わる!?
- 長岡義幸の街の本屋を見て歩く3…7
- 「本屋は本のプロでなければ
ならないと考えています」
文星堂(東京都品川区)
磯田 直樹 取締役
- Honya Club で見える市場……………8
- AKB48 総選挙から読者を振り返る!!
若い男性中心ながら、女性ファンも増加中

いま改めて書店について考える 一本屋の機能を問い直す

東京国際ブックフェア2011 特別講演から

7月9日に東京・江東区の東京ビッグサイトで本の学校出版産業シンポジウム2011in東京「いま改めて書店について考える一本屋の機能を問い直す」が行われ、フリーライターの永江朗氏をコーディネーターに、翻訳家の青山南氏、国立情報学研究所の高野明彦氏、大垣書店の大垣守弘氏が、電子書籍やネット書店が広まる中で、リアル書店が担っている役割について意見を交わした。



見落としを教えてください

永江 本日のテーマは、本屋の機能を問い直すということです。リアル書店、紙の本を売る本屋の話を中心にしていければ。



青山 僕が本屋に行く大きな理由は、ベストセラーを買いに行くのではなく、どんな面白そうな本を見落としているか、教えてもらいたくて本屋に行きます。現物を見る時の力というのはかなり違うものです。

永江 高野さんは、データベースについて研究をされていますが、「ブックタウンじんぼう」を作る過程で、神田神保町の古書店とはどんなつきあいをされていますか。

高野 今の勤務先が、大学の図書館1000館の元締めのようなところで、全国の大学図書館でどういふ本がどこにあるのかわかるデータベースを維持しています。

「新書マップ」という新書だけテーマ別に分け

青山 翻訳家
コーディネーター
フリーライター
永江 朗氏

高野 国立情報学
パネリスト
翻訳家
青山 南氏

大垣 大垣書店
パネリスト
国立情報学研究所
高野明彦氏

大垣 大垣書店
パネリスト
大垣守弘氏

たような書棚のようなものを作ったり、勤務先が近いこともあって、170店舗以上の古本屋が集結している神保町のポータルサイトを手がけています。

神保町の古本屋の本冊すべてがピンと来る訳ではないのですが、自分との相性のいい書棚が散在している。それが神保町の魅力だと思います。

地域書店存続の仕組みを作る

永江 大垣書店はどういう本屋で、本屋を営んでいてどういう風を感じているのか。大田丸とは何なのか、何をしようとしているのでしょうか。
大垣 京都の北区で約70年ほど前に家族経営の書店として、北大路で本屋を始めました。私は大学2回生まで、書店を継ぐつもりはなかったのですが、商環境が変わる中で、家族の商売に対す

る熱意を見ているうちに、仕事をしていました。京都には、それこそ四条通、河原町通、京都駅周辺と大型店が続々とできて、次の世代に残せる書店が、私自身でできるかずっと不安でした。他社が出店する前に私たちがその場所を押さえなければと、本当に危機感の連続で対応してきました。気がつけば店舗も25店舗です。

これでいいということは多分なくて、これからも電子書籍、さらに大型の書店が出てくる可能性もある。そういうことを、今井書店の田江(泰彦)さん、廣文館の丸岡(弘二)さん、それぞれ経験・知識をお持ちの方と話をし、出版社とも相談したらぜひ応援するというので、今回、大田丸を設立しました。

大田丸では、今までにない書店の経営スタイルを作っていくないと、地方書店は存続しないの

出版業界

近刊情報時代の幕開け

書店には客注の獲得。出版社には、マーケティング情報を提供!

光和コンピューターが提案する近刊対応2つ

1.店頭での近刊予約端末



PITSPOT ビットスポット

PITSPOTは店頭での新たな近刊予約ツールとして来店客の方々直接近刊予約(客注)を行う事を目的とした端末です。



2.近刊情報EDI支援システム

出版社

- 近刊情報登録機能
- 近刊登録一覧
- 書籍レコメンド登録機能
- 近刊JPOデータ送信機能
- 予約情報受付・ファイル出力

書店・取次

- 近刊JPOデータ受信機能
- 書籍レコメンド登録機能
- 近刊情報検索機能
- 近刊予約

お問い合わせは、出版社と書店を繋ぐネットワークをサポートする

KOWA 出版・書店総合システムの 株式会社 光和コンピューター

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-1-2 岩本町東洋ビル TEL: 03-3865-1981 FAX: 03-3865-1922 http://www.kowa-com.co.jp/ kowa@kowa-com.co.jp

特別講演 いま改めて書店について考える

古本屋でオールジャンルは成立しない。

へではないかという思いで、設立しました。地方書店がどんどん減っていく中、大型書店が主要な駅前に出店することで、地域書店は本当に疲弊しています。地方書店が存続するための仕組みを作ろうと、第一歩を踏み出したところです。

アマゾンができたのは大変な事件

永江 この先、本屋の「もの」「はこ」「ひと」「こと」の四つに話を集約し、本屋の機能について語り合っていきます。

青山 私のような外国の本と関わる者にとってアマゾンという本屋ができたのは大変な大事件でした。これまで外国の本というのは注文すると、早くて3カ月、下手すると6~8カ月、本がこないということもありました。

ところが、アマゾンができたおかげで、注文すると早ければ翌日、3日後に来ることが実現して信じられない事態です。

また、本屋が本を持ちすぎる。一つの本屋がいろんなジャンルの本をできる限り集めるのはかなり無理がある気がします。いろんなジャンルの本屋があちこちにあるのは重要だと思いますが、

高野 たしかに、神保町の古本屋を見ていると、

緩急差のある本棚が書店の魅力

永江 リアル書店の最大の特徴は、具体的・物理的な空間を持っていることだと思いますが、高野さんの立場から、書店が持っている空間の特性、それによる機能について、どうお考えですか。

高野 300~500万冊の本の目次が調べられるデータベースのサービスと、古本屋さんの200~300冊並んでいる書棚を比べると情報量は、圧倒的に前者のデータベースの方が多。でも、書棚の前、新刊書店の喫茶店、ベンチに座っていた方が頭が回るんですよ。

なんでかなと思って、新書マップを作ったのですが、背表紙を眺めた時に、何冊かの背表紙が目に入る。そして、興味を持って手に取れば、本当

昔と比べ、書店員は偉そうになっている

永江 最近の書店員はダメになったといわれがちですが、海外の書店と比べて日本の書店員の人材、接客態度、商品知識とか、ダメですか。

青山 本の広告を見ていると、あちこちの書店員がコメントを出して、昔と比べ偉そうになっている。書店大賞をどうして作るのか。結局、売れている本をもっと売りたいだけではないのかという感想しかない。僕はいい印象を受けていません。

向こうは店員が少ないですね。かなり大型の書店でも少ないですね。でも、その人たちに質問して、こんな本を探していると伝えたりすると、これだと言って1~2冊出すんですよ。そういう形の案内をしてくれます。

永江 人材面で見た日本の書店はどうですか。

高野 本屋さんに苦情が来るのは、本屋さんの責任というより、出版界の責任。本を出し過ぎている、1日に200冊も本が来て、こういう本が出ていましたよねといわれても、そういうことが頭に入らない。

棚をわかっている人が本を揃えて、長く滞在させることで、書棚の魅力を増し、案内する力を持

これだけアマゾンが流行ってしまうのも、関連する本・著者のリンクをクリックしただけで、著者の旧著などが一覧で出て、その原著までリンク

かつていい本屋は難しい？

永江 青山さんから新刊本屋にそんなに本はいらないのではないかと、挑発的な発言がありました。最近大きな書店を作った側としてはいかがですか。

大垣 最初は数は力と、いつかは大きな書店を作ってみたいという思いはありました。昨年、ようやく滋賀県の一里山に千坪クラスの書店を出店しました。

今までに扱っていなかった本を置くことで、お客様の間口、ターゲットは広まって、かなり広範囲のお客様に来店していただくなど、手応えを感じています。

最近では、京都のふたば書房は雑貨と本が一緒に、非常に理想的な書店。

しかし、それだけが書店の役割ではなく、先生方のような難しい本を読まれる方だけでなく、普通の一般書、児童書、文庫本を求める人の要望

に本文の中に入れていける。その一覧性と奥行き感。キーワード検索で、本文に出てきた語句を検索できますという深みとは全然違う。このスピード、緩急差、書棚が本屋さんの魅力です。

青山 大学時代、あまり授業には出ず、大学への行き帰りに古本屋に入っていました。その本棚に並んでいる本で、本を知り、著者名を知り、こういう研究をしている人がいるんだと、すごく学びました。

今は学生が古本屋に入らない。それは非常によくない。本は読まなくてもいいから、周りを見て、どんな本のタイトルがあって、面白いタイトル、作者名だなど繰り返し見て、何かを学ぶ。僕は早稲田の古本屋で学びました。

永江 大垣さんは2人の話を聞いてどう思いま

った人が脇にいられる状況を作ってほしい。

大垣 小売店にとって電子書籍が今後どんな形に変わっていくのか。町の書店は出版社が作ったものを並べることからさらに発展していかないと生き残れないことをひしひしと感じています。

時代、人の流れに対応するのが商売

永江 本を買う手段がたくさんある時代に、リアルな本屋だからこそその魅力をどうやって見出すのか。この震災の中でも書店が目目されました。コミュニティの核としての書店の機能に注目したいと思います。

高野 作家という書いている人と、読者との距離を縮めようと努力をしています。書店が文化的な活動のきっかけを与えています。活動の案内を書店に置いて、文化的活動がコミュニティの核になるような活動をもっと意識的にできるのでは。

青山 カリフォルニアのパークレーにあるコーディーズブックスは、朗読会やカフェをかなり前からやっていました。そこはかなり有名なインディペンデントの本屋で、独自の品揃えというか、クセがありすぎるくらいいろいろ並べている書店です。

が張られていて、すぐ探して買える。その利便性が非常に強烈に購買者にアピールしていて、まとめ買いはアマゾンで、たまたま出会った新刊本は新刊書店で。新刊書店のビジネスが細ってしまう悲しい状況です。

に比べられる書店を作ることが、地域密着型の書店の役目です。

アマゾンでは注文した本が早く手に入る。大田丸でも、取次と話し合いをしています。現在でも、店頭の本を注文しても補充率は6~7割。注文した売れ行きの良い本ほど、店頭から在庫が消えていく。注文したものの9割近くが入ってきて、多くのお客様に満足してもらえる物流・品揃えを作っていくことで、地方書店が残っていく道があると思います。

永江 かつていい本屋をメディアで取り上げがちですが、書店経営からすると、ああいうものだけで存立させることは難しいと。

大垣 本来ならやりたいです。しかし知識、経験がないと難しい。内装や品揃えは最初は選書家の方に選んでもらえればできると思います。それを維持したり、新しいものが出た時に、時代に合せて品揃えを替えていくには、高度な技術が必要だと思えます。

したか。

大垣 新刊書店は、こちらから情報を発信することができていない。自動的に送られてきたものを一定期間並べて、売れているものを発注し、時間がたてば返品するという流れで、受動的。書店人がこういう棚を作ろうと、棚づくりをしているのは稀で、セレクトショップ的な一部の書店だけで、そういう努力不足によってお客さまの足が遠のいているのでは。

日本では新刊が自動的に来ますが、海外のように書店が本をセレクトして、こういう店作りをしたいから事前に出版社にお願いして、本を書店に送ってもらえる仕組み、人材を育てることが重要だと思っています。

電子書籍でも、地方書店連合体で扱うだけではなく発信できるような仕組みを作らなければと。書店が電子ではできないところの緩衝材となって、情報を提供することも重要だと思います。

本店が06年に、サンフランシスコの支店が08年に、最終的には全部閉めてしまい、姿を消してしまいました。

しかし、作家と読者とを近づけるために読書会を開いたり、サイン会を開いたり、講演会を開いたり、そういったことの重要性に早い時期から気がついてきた書店です。

大垣 やはり人の流れというか、時代時代によって人の感覚は大きく変わっています。いろんな流れがあって、人の気持ちも考え方も時とともに変わってきている。そういうものに対応できるか。それが商売人の大事なところですよ。

大田丸はまだ始まったばかりですが、今は人材、将来の人材派遣、後継者がいないところのお手伝いなど、何を事業の柱にするのかを考えています。課題はたくさんあると思うのですが、そんな気持ちで本屋を続けたいと思っています。